

## MV-22 オスプレイの大分空港などへのたび重なる緊急着陸 に関する意見書

米軍普天間基地所属のMV-22 オスプレイが、去る8月29日午後6時34分、民間専用の大分空港に緊急着陸し、その後、機体から白煙や炎が上がったとの報道があった。

同型機は、去る8月5日にもオーストラリア東海岸での訓練中に搭乗員3名の死者を出す衝突落下事故を起こし、本市議会としても米軍や関係機関に対し、オスプレイの飛行中止や原因究明を強く申し入れをしたばかりである。その原因究明の結果や再発防止策の公表がなされないままに、このような事態が起きたことに対し、米軍の整備体制や安全管理への取り組みに甚だ疑問を持たざるを得ず、強い憤りを覚えるものである。

普天間基地所属機の緊急着陸は6月1日、6日、10日の事案に続き、わずか2カ月間で4回と立て続けに発生している。市街地のど真ん中に普天間基地を抱え、常に事故の危険と隣り合わせの生活を余儀なくされている宜野湾市民の不安と恐怖は極限に達している。

よって、本市議会は市民・県民の尊い生命及び財産並びに安全・安心な生活を守る立場から、今回のオスプレイの大分空港などへのたび重なる緊急着陸に対し、厳重に抗議するとともに、下記事項が速やかに実現されるよう強く要請する。

### 記

1. 同型機の飛行を即時中止するとともに、事故原因を徹底究明し、速やかに公表すること。
2. 実効性のある再発防止策を講じ、実施状況を明らかにすること。
3. 普天間基地の1日も早い閉鎖返還と5年以内の運用停止を実現すること。
4. 日米地位協定を抜本的に改定すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成29年9月12日

沖縄県宜野湾市議会

あて先：内閣総理大臣、防衛大臣、外務大臣、沖縄及び北方対策担当大臣  
沖縄基地負担軽減担当大臣、外務省沖縄担当大使、沖縄防衛局長